

大正四年賀露村全図を読み解く ― 地図に残された賀露村の歴史 ―

大正四年(1915)に作られた賀露村全図には、区割りや村役場の位置、御台場、水溜、青塚など、当時の賀露村の様子が描かれています。この地図を眺めていると、いくつか気になる点が見えてきます。

1 区割

地図には、一区から六区までの区割りが記されています。この区割は、いつ頃つくられ、どのような目的で定められたのでしょうか。

2 賀露村役場の所在地

村役場は、明治三十三年の地図では東善寺南側に、昭和九年の地図では賀露町一〇六九番地(旧公民館跡)に記されています。この地図では、二区の旧賀露小学校へ続く坂道付近に描かれています。村役場が場所を変えてきた背景が気になります。

3 御台場(砲台)

元治元年(1864)、賀露には「加路東浜御台場」と「加路西台場」の二つの御台場が設けられましたが、この地図には一か所しか記されていません。御台場は、いつ頃姿を消したのでしょうか。

4 水溜

地図には「水溜」と書かれた区画があり、小字名にもなっています。「水溜」は、どのような場所だったのでしょうか。

5 青塚

中国古代の四大美人の一人、王昭君(おうしょうくん)の墓は古くから「青塚」と呼ばれています。賀露の「青塚」という地名にも、何か由来があるのかもしれませんが。

6 貝殻屋敷ができる前

この地図には、貝殻屋敷ができる前の地形が描かれているように見えます。当時、このあたりはどのような様子だったのでしょうか。

7 村界

賀露町の西側には広い湖山砂丘が広がり、鳥取市伏野の砂丘と続いています。なぜ、この広大な砂丘地が賀露町の村域に含まれているのでしょうか。

大正四年の賀露村全図には、『賀露誌』に十分記されていない歴史の手がかりが残されているのかもしれませんが。地図に関する情報や昔のお話をご存じの方がおられましたら、ぜひお知らせください。

